

料金後納  
郵便

# やまもりの通信

ゆうメール

NO. 248 2024.3 NPO法人恵那山みどりの会



恒例の「市民門松づくり大会」を実施しました(本町公園)

竹林整備とタケノコ堀大会 4/24(土) 千旦林辻原地内竹林  
今回は例年の日とは異なりますのでご注意ください

ホームページ

恵那山みどりの会

検索



河内龍二

今年の二月は変である?  
報道によると昨日(二月二〇日時点)は真夏日を記録したところもあったとの事。当地でも20度を超えていた。

二月は旧暦でいうと如月(衣更着)だが新暦では今年は3月半ばの由。生活感でいうと旧暦の方が実感に合う。「衣更着」とはまだ寒さが残る季節で重ね着が必要な季節だという。それにしても昨今の季節感はずれてきているような気がする。春は三寒四温を経て近づいてくると思うのだが、夏日を経てくるのかと思う時が変になる。

そんな中、能登半島地震災害で大事な家族や家を失い路頭に迷う人達はどんなにか苦勞をされているのだろうか? 当会でも、募金を募り寄付をさせていただいた。

世界ではロシアのウクライナ進、攻も二年を過ぎ、ウクライナが苦戦している。他方ではイスラエルのパレチナ進攻の激化にともない一般人の犠牲がとんでもなく増加している。こんな事態に国際社会はなす術もない。

第二次世界大戦後この反省のもとに確立した平和主義という理念は大国の欲望で危機に瀕している。ナショナリズムの台頭が自国主義を助長し、国際協調という理念が瓦解に瀕している。戦争放棄を国是としている日本が今こそ世界の仲介役として活躍しなければならぬのに、全く品のない問題で混乱しているのがもどかしい。

若い世代の政治離れが危惧されているが、国を超えたインターネットを使った良識ある若い世代の連携に期待したい。

島根県安来市にある「足立美術館」の日本庭園を「存じだろうか? アメリカの庭園専門誌で日本

庭園部門二一回連続日本一を獲得した庭園である。

過日、NHKスペシャルで紹介されていた。横山大観や北大路魯山人などの日本を代表する作家の作品を展示している美術館であるが、とりわけ、その庭園は雄大で四季折々の景観を見せる。苔庭の白砂、枯山水の庭と背景にある山々と一体になっている。横山大観の日本画を庭で再現しているという「自然」と「人工」の調和。これがモチーフとなっている。こんな自然はどこにもない。その規模の大きさと繊細さは「禅」の境地にも似ている。この世の世界ではないものを見せている。したがって「現実」ではないのであるが、魅せられる。

しかし、人工のものであるがゆえに、その手入れは大変なものである。世界の平和も、豊かな緑で覆われた人工林も日々、苦勞しながら大切に育てていかなければ、無に帰する。

【森へいそび】

高山 薪炭材調達

一月十六日(火)、十七日(水)各五名の第四回木の伐採体験会に参加いただいた方から、「薪炭材を提供しても良い」と言うご好意を得、令和六年最初の作業として取り掛かった。

提供頂いた範囲には、四十センチ超のアベマキが二十数本あり、一度での調達は時期的に無理と判断し、半分ほどとして作業開始した。

まずは、薪炭材を寝かす場所を確保するため、柴刈、低木の伐採に手分けして取り掛かった。作業範囲の七割がた刈取った柴の集積、伐採した低木の枝払い集積整理をし、一日目の作業終了とした。

二日目も、前日の続きで柴刈、低木の伐採及び薪炭材を寝かすのに支障となる樹木の伐採、並びに薪炭材を寝かすための準備として、チルホルルの設置に手分けして取り掛かった。

支障となる樹木の伐採もあらかた終わり、チルホルルの準備もできたので、いよいよアベマキに取り掛かった。

まず大径木の手前にある三〇cm程のアベマキを寝かした。それと並行して大径木のアベマキの、田んぼ方面に伸びている枝二本を切り落とした。

始めに寝かしたアベマキの枝払いを行い、六〇cmを超える大径木のアベマキを寝かせることとした。今回の現場で最初に寝かせる大径木である。

枝二本を切り落としたが、その上にも田んぼ方面に伸びている枝がまだあり、寝かせたい方向とは九〇度程ずれているため慎重に受け口、芯切を入れ追口を入れた。しかし、チルホルルの取り込みはきつくアベマキにも変化はない。

追口にくさびを入れ、再度慎重に追口を切り込んだ。バキッという音に続きドスンと響き渡った。

ああ!と声なき声、九〇度程ずれた田んぼへ見事に寝たのであった。田んぼ内に散らばった小枝の処理、

農道上の太い枝払い並びに農道上からの移動、これらを全員で行い、二日目の作業終了とした。

一月二十九日(月) 三名  
三十日(火) 四名

高山での三日目の作業、二十九日は前回までに寝かせた樹木の玉切り整理を行った。積み込むトラックの荷台、クレーンの吊り上げ能力等を考慮し、最長二、四m、大径木は一、六ないし二m程度に玉切りを行った。

明日からの作業で、アベマキを寝かす場所の整理を行い、三日目の作業を終了した。

四日目、前回の太径木より少し上部にある五十cm程のアベマキを寝かすために支障となる松等の伐採と並行し、隣接のアベマキと絡んでいる枝の処理を行った。

枝の伸びにも偏りはなく、慎重にチエンソーを入れれば問題なく想定場所に寝かせるはずだったが、受け口方向

が少しずれており、周囲から修正を言われて若干修正したが、足りなかったようで追口はここまでと思った瞬間、バキッと見事にチルホールを設置してある大径木めがけて寝て、これまた見事なかり木となった。何事もなかったからよかったものの、チルホール操作者を慌てさせた。

大径木が一回り大きい大径木にかかり木となったため、切断面に残っているものを切り、根と切り離しチルホールにて横へ移動させようとしたが、うんともすんとも動かない。

時折、バキッとバキッと音がして少し動揺するが、かかった状態から全く変化がないため、バキッとバキッと少しずつ裂けている枝が折れて、かかり木が解消することを願ひ、この日はここまでとした。技量の未熟さを露呈した伐倒となった。

二月一日(木) 四名

五日目、二日前のかかり木の処理をどのようにするかあれこれ考え、隣接

のアベマキから吊り上げ気味に移動させて見ようと思ひ、雑木林窯に寄りワイヤー、滑車等を積み込んで現地へ向かった。

おかげさまで願ひがかなったのか、雑木林へ寄ったのが良かったのか、かかり木は地上に寝ており早速玉切り・枝払い作業にかかった。

その後、隣のアベマキを順調に寝かせ、玉切り・枝払いを行った。

今回の作業範囲のほぼ中央に位置するアベマキを寝かせ、玉切り・枝払いを行い、五日目の作業を終了した。

二月七日(水) 五名

八日(木) 四名

九日(金) 二名

六日目、七日の作業は作業範囲の周囲に残っているアベマキを寝かす作業三名と、今迄に寝かした薪炭材の集積整理二名に分かれて作業した。

作業範囲も広く、集積整理の個所とアベマキを寝かす個所とは離れていたが、時々お互いに作業状況を確認しな

がら安全第一で作業した。

七日目 八日の作業は昨日の続きで、アベマキを寝かし、玉切り・枝払い作業を行った。

作業範囲も広がり、かかり木の心配もなく順調に作業できたが、時々想定方向から離れて寝るアベマキもあった。八日目 九日の作業は二名で昨日寝かしたアベマキの玉切り・枝払いと、それまでのアベマキの集積を、チルホールを使用して行った。

大径木の集積はさすがに二人では手に負えないため、今後の集積方法を検討して作業を終えた。

二月十四日(水) 四名

九日目 先週までに集積した分と、六十m超の大径木を含めた一回目の搬出を行った。

作業箇所への農道が、これまでの軽トラの走行でかなり荒れてきており、特に直角に近いカーブがひどいので、所有者に了解を得、朝一番に小型ダンブ一杯の碎石を入れ整備した。おかげ

### 【定例作業日誌】

森林資源活用部 伊藤 守

一月三日(火) 晴れ 八人

二月二三日(火) 晴れ 七人

夏から始まった神坂窯の解体作業は、建物の解体はほぼ終了し、出てきた柱・梁などの廃材は、薪材として利用できる物は利用し、その他の廃材は焼却処分とした。残すのは、天井は鉄板で、周りは耐火レンガ・コンクリートブロック・石塊で覆われた炭窯のみとなった。炭窯を壊すのは、我々の力量では少々無理なようなので中根石材さんの力を借り、近々解体作業に向かう予定です。

神坂窯の思い出 神坂窯は、私にとっては想いのある場所です。名古屋から移住する前バス・電車・バスと乗り継いで定例作業に通いました。JRからの車窓は、高蔵寺を過ぎ庄内川に沿って定光寺に向くと、都会から、山が迫る風景の変わる小旅行気分でした。

作業開始時間には間に合う事が出来ず、

何時も遅刻でしたが皆さん親切に対応して下さり、帰りは中津川駅まで送って頂きました。皆さんの親切な声かけ、優しい眼差しで「みどりの会」活動に参加する決意が固まりました。薪づくり・炭だしの手伝いをしてきましたが、田口さんからレンガを積んだ焚口の作り方、窯止めのタイミング等炭焼きの手ほどきを受けたのが一番の思い出です。

今回の神坂窯の解体作業は、次につながる再生活動では無いのが残念。そして環境保護団体が、多くの産業廃棄物を出してしまっただ事に考えさせられる結果となりました。

でクレーン付きトラックも無事に通行でき、午前一回、午後二回の大径木を含めた搬出作業をすることができた。

農道の荒れはまだ数か所あり、坂道でもあるため、あと五〜六杯ほどは碎石の搬入が必要である。

三月になります。碎石搬入による農道整備と、ロープウィンチ等による集積作業、そして薪置場への搬入、薪割作業と続きますので、皆様ご協力よろしく願ひします。

高山での薪炭材調達作業の中間報告でした。

※ 平日で随時ではあります。右記のような薪炭材調達作業、委託を受けての伐採作業、竹林整備作業等を行っております。

作業に参加してみようという方は恐れ入りますが、左記まで連絡いただければ有難く思います。

携帯：090-3555-1752

E-mail: hkmrya@k5.dion.ne.jp

担当：早川宏之



マンサク

早春、山で一番早く咲かせ。2/11 長根川で見つけました。

どんど焼き

河合博臣

門松づくり参加者21組38人

どんど焼き参加者 27人

「もういくつねるとおしょうが

つ・・・」

恵那山みどりの会の恒例になりました「門松づくり」を本町公園にて12月23日(土)10時より12時まで開催しました。家族で、友達とまた職場の仲間に参加されました。みどりの会では、門松に必要な竹、松、ソヨゴ、梅、南天及び砂、わら縄、のこぎり等を準備。指導はみどりの会会員16名で門松づくりを一緒に行いました。ある家族の方は、サンタさんの赤いところが帽子で参加した園児だった子が毎年家族で参加、4年生になりました。また、実家に門松を届けるため2対の門松を作る方、正月に里帰りする家族と孫を迎える門松にと思いを乗せて作る方などで賑やかに開催できました。

このように「門松づくり」が竹藪に入っ竹を切ることで、竹林が整備され、タケノ

「が取れ自然の恵みを受けれる環境づくりを目指しています。また、今回は保育園の先生から園児と門松を作りたいとの申し出があり「門松の材料一式」を準備して届けました。その様子が届きましたので紹介します。

門松づくり

私は恵那山みどりの会の門松作りに初めて参加したのが2019年でした。その間に同じ職場から「私も行きたい」と声があがり昨年は4人で参加させてもらいました。竹切りは手伝ってもらいながら、自分で飾り付けをしていくうちに保育園で「私の職場子ども達と一緒に作れるといいなあ」と思い、残った竹や南天、松、梅などももらって行けないか聞いてみると、快く「持ってきて」と車まで運んでくれました。昨年は1対分の材料を申し込み、竹、沢山飾り付けの物も軽トラで届けられました。12月26日に門松作りを行いました。園庭で先ず竹の見方や切り方の話を園長先生が話をして「お母さんはおちよほ口」「子どもは笑ってる大きな口」など話

すと、真似して口をおちよほ口にしたり大きな口にしたりしてよく聞いていました。竹の切り口を見て、わあほんとだあと繋がる子ども達の反応も見られました。バケツに竹を立て子ども達が砂を入れてくれました。縁起の良い松、梅、ソヨゴ、南天も子ども達が飾りつけて新新ですがみんなの思いがこもった門松が完成！お迎えに来た親さんが写真を撮ったり、門松を見ながら親子で話している姿にほっこりしました。昨年で2年目の門松作りでしたが、昔からの習わしを大事にして途絶えることなく子ども達に伝えていきたいです。職場の先生達から「また来年も門松作り行きたい」「家族に好評だった」など嬉しい声。貴重な体験がありがとうございました。

園児たちの笑顔が目に見えます。大人になっても大切な思い出となることを期待します。

このような活動を子ども園など一種に活動できればと思います。

どんど焼き(左義長)

2023年12月に作りました門松を送るため2024年1月8日(日)に本町公園横の中津川河川敷で門松や書初めなどを納め、5人の子供たちにより10時火入れを行いました。2024年の方角「東北東」に芯竹が倒れ、よい年となるようお願いしました。(元旦に能登半島地震が発生し、復興を願うばかりであります)参加者はどこの炭で持参した餅、ミカン等を焼き、風邪など病気とは無縁で毎日が健康であることを願いどんを楽しんでいました。また、里帰りをした家族の方は初めての参加に楽しく感謝されていました。

恵那山みどりの会は門松、とんどから、里山、竹藪など身近なところから、自然と向き合えればと活動を進めています。

写真で門松作りをお知らせします。



園児の飾りつけ門松



竹切断



親子で協議中



どんど火入れ



門松完成

投稿

一期一会

林ふみ子

雑木林窟での西学童の「お楽しみ会」の写真、昔と違って高度なものが要求される学校生活から心身ともに解放された子供たちの表情に涙が出てきました。

男女共同参画で地道に作り上げてこられた「恵那山みどりの会」の活動と「やまもり通信」の発行、本当にご苦労様です。大分から越えてきて生協に誘ってもらい、ここで小林さんに出会いました。いただいた菊芋の漬物もおいしかったです。亡くなられた小椋さんのところにある薪小屋も汗の結晶ですね。

会社でキムチをやることになって、神坂から大きな樽が運ばれた。水が漏れるので、結局使えなかつた。タガを外してバラバラに解体してゆく中で、作った人の根気と工夫に感動した。各々立場は違う

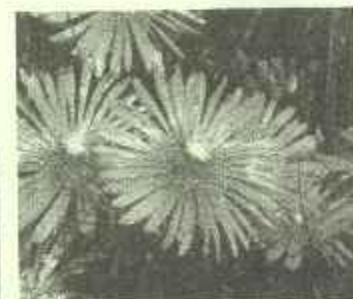
が自分のやれることをコツコツやっけていくしかないと思つた。

私は母の実家である神坂で生まれた。無医村で母の兄(島田千尋)が医学部を受験することになった。病に臥せっていた母親がお宮参りに行きたいと夜明け薄暗い中を怖いので7人の子供は石を持ってついて行ったという。その時、子供たちに語った「女は弱し、されど母は強し」という言葉は女学校の時に母を失い激烈な体験だったと思う。それを思い出しながら、母はその後の人生を乗り越えてきたのだらう。7年ぶりに身ごもった私を案じて初めて大分に来てくれた。寝台特急「彗星」で帰る母を見送りながら、三代に渡って語り継がれていく「祈り」と「言葉」であった。

だいぶん前、中川鮮さんが催された学習会でドイツの「黒い森」と藤沢市の分別の取り組みは私にとって新鮮な学びの場であった。

坂本駅前の栗山さんからもらつた一株のマツバギクが「小より大

へ」と拵がっけています。病身でありながらこんなところまで歩いてきたのかと驚いた神坂のお宮のそばのお墓に試行錯誤しながらマツバギクを少しずつ移植しています。“生かされている”ということを感じながら・・・



2024年 3月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
3日	日	13:30	役員会	事務所	担当・役員	
10日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
12日	火	9:00	定例作業日	神坂小屋	会員・一般	
18日	月	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
24日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
26日	火	9:00	定例作業日	神坂小屋	会員・一般	
27日	水	13:30	企画会議	事務所	担当・役員	

4月 イベントと森の学校の予告

	行事内容	会場	備考
27日 土	竹林整備・タケノコ掘り大会	千旦林・辻原竹林	
日			
日			
日			

編集部連絡:原稿締切は毎月20日です。  
また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。  
森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連あるご意見などをお寄せください。  
関係の深い記事など通信に記載します。  
イラストなどもお寄せください。

発行責任者:NPO法人恵那山みどりの会  
理事長 河内 龍二  
事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13  
(TEL・FAX 0573-65-1366)  
13:00~16:00(水・土・日・祭日休み)  
メールアドレス:midorinokai@wine.ocn.ne.jp

## 2024年 4 月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
7日	日	13:30	役員会	事務所	担当・役員	
9日	火	9:00	定例作業日	雑木林	会員・一般	
14日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
21日	日	13:30	やまもり通信編集会議	事務所	担当・役員	
22日	月	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
23日	火	9:00	定例作業日	雑木林	会員・一般	
24日	水	13:30	通信発行・企画会議	事務所	担当・役員	
27日	土	10:00	竹林整備・タケノコ掘り大会	辻原竹林	会員・一般	
28日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	

## 5 月 イベントと森の学校の予告

	行事内容	会場	備考
日			
日			
日			
日			

編集部連絡:原稿締切は毎月20日です。

また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。

森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連あるご意見などをお寄せください。

関係の深い記事など通信に記載します。

イラストなどもお寄せください。

発行責任者:NPO法人恵那山みどりの会

理事長 河内 龍二

事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13

(TEL・FAX 0573-65-1366)

13:00~16:00(水・土・日・祭日休み)

メールアドレス:midorinokai@wine.ocn.ne.jp